



～院外心停止患者の予後に関する 時間・空間的解析に関する研究～

東京科学大学 救急災害医学分野

問い合わせ先

病院救命救急センター 学外非常勤講師 千田篤

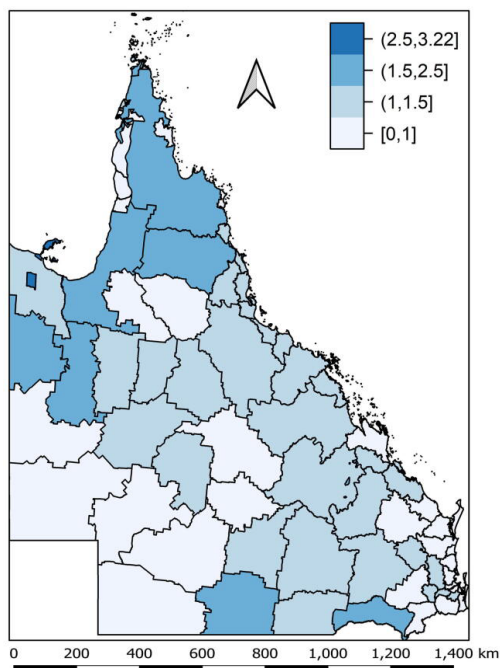
atsenda.accm@gmail.com / 03-5803-5879/03-5803-0274

研究背景

院外心停止（OHCA）は公衆衛生上の大きな課題であり、成人における平均発生率は年間10万人あたり55件とされています。日本では、170万以上の心疾患患者がおり、毎年12万人が心停止を経験しているとされます。AEDの普及などにより生存率および社会復帰率は改善傾向にあるものの、院外心停止傷病者の社会復帰率は心停止を目撃された心原性心停止であっても10.2%に留まっています。

先行研究

2007年1月から2019年12月の間にクイーンズランド州で救急隊員が立ち会ったすべてのOHCA症例のデータに当てはめ、クイーンズランド州の全78の地方行政区（LGA）について、OHCA発生面積年リスクを推定し、テーマ別にマッピングを行いクイーンズランド州でOHCAリスクが高い地域を特定し、公衆衛生政策の指針と資源配分の最適化に役立つ情報を提供されています。



研究対象

救急隊による処置が実施され、当院救命救急センターに救急搬送された院外心停止（OHCA）患者を対象とし、性別や年齢、人種は問わず、調査期間を2016年7月1日から2022年6月30日までの6年間としました。研究対象者の予定数を1年あたり130-150名と見積もり、合計835名とします。

研究方法

当院救命救急センターに搬送された院外心停止（OHCA）患者の特徴（年齢、性別など）、空間情報（バイスタンダーの有無など）、時間情報（覚知から病着、引継ぎまで各段階の移行時間など）、予後（1ヶ月後生存率など）を診療録等より収集し、空間的・時間的次元、時空間相互作用、人口動態要因を考慮した時空間ベイズモデルを作成し、時空間情報と予後因子の関連を分析します。研究期間を研究実施許可日から2026年3月31日とします。

診療録等を用いた研究であるため、書面によるインフォームドコンセントはいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施されます。本研究への協力は任意ですので情報の使用を望まない方はポスター上記の問い合わせ先までお申し出ください。

なお、本研究は東京科学大学医学系倫理審査委員会の承認及び機関の長の許可を得ており、本研究に関して開示すべき利益相反関連事項はありません。

研究実施体制

森下幸治 / 病院救命救急センター 教授
(研究責任者、情報管理責任者)

千田篤 / 病院救命救急センター 学外非常勤講師

苦情窓口：

東京科学大学研究推進部研究基盤推進課生命グループ
03-5803-4547

(対応可能時間帯：平日9:00～17:00)